



台風15号が首都圏を縦断し、千葉県南部を中心に大きな被害が発生した。ワーカーズコープ連合会加盟組織の中でも、ワーカーズコープちば及びセンター事業団東関東事業本部の施設で倒木による停電や道路の封鎖、強風による施設の倒壊や組合員宅の屋根が飛ぶなどの大きな被害が出た。

連合会では9月12日に災害対策本部を立ち上げ、その日の午後には物資を積んで東関東事業本部が運営する「君津森林体験交流センター」を訪ねた。そこへ向かう道さえも倒木で一部通行が出来ず、また停電も起きており、すぐに再開するのは困難な状況であったため、近隣の久留里駅前の「上総地域交流センター」に避難していた地域住民への物資提供を行った。また君津市では学習支援の業務も受託しており、そのなかで気になる利用者の家庭をセンター主任と訪問し、物資を届けながら状況を気遣った。

連合会で義捐金を呼びかけ、全国の加盟組織からご寄付をいただいたことをこの場を借りてお礼を申し上げたい。

連合会では今年度、県単位での協同労働推進ネットワーク設立に向けて、地区別の協同労働推進会議を開催。9月4日には、北陸甲信越地区で会議を開催し、その後長野県でのネットワークに向けた信州協同労働推進ネットワーク会議も

行った。

労協ながの、長野県高齢者生活協同組合、長野県内のセンター事業団の複数の事業所に加え、これまで県内で一緒に協同労働を学習してきた「グリーンファーム」小林文磨さん、元「田楽座」の松田みつ子さんに加えて、JCA国際協同組合デイ中央集会でパネリストだった「JAあづみくらしの助け合いネットワーク」池田陽子さん、信濃町で新しくワーカーズコープを立ち上げようとしている「ライフワークレインボー」出浦洋子さんらが参加。池田さんや出浦さんの話を聞きながら、地域にどのようなネットワークがあると協同労働の団体が立ち上がり、その後のつながりや展開を作っているかを考える場となった。

早速、9月29日には、日本社会連帯機構の玉木信博さんが中心となって移住先の中川村で立ち上げた「ソーシャルファーム」のメンバーが、中川村でグループホームを立ち上げるにあたり、労協ながのが長年に渡り運営してきた木曾のグループホーム「風舎」を視察。丁寧に制度・経営・運営について教えてもらう。その後10月7日には、長野高齢協理事長田中夏子さんたちと、ソーシャルファームのメンバーが、ライフワークレインボーが取り組むナチュラルハウスクリーニングを勉強に行く。ライフワークのメンバーも大いに励まされ、よい交流の機

会となった。同様のネットワーク会議は滋賀、新潟、関東でも9月に開催されている。

「与党協同労働の法制化に関するワーキングチーム実務者会議」も、9月に2回開催され、懸念であった移行措置に関しても意見交換がなされ、法案が近々出

される状況となっている。協同労働で事業を立ち上げたい連絡が引き続き各地から届いており、センター事業団の事業本部を中心に加盟組織と相談に乗っている。法制化を念頭に、早期に協同労働推進ネットワークを全国で広げていきたい。